日本行動計量学会
会報
第26号
1982年3月10日
日本行動計量学会
運営委員会広報係
（〒106）東京都港区
南麻布4－6－7
統計数理研究所内

客観的測定によるアプローチと主観的アプローチ

開原成允

科学の歴史をひもといてみるとそれは、主観を排し、対象をできる限り客観化しようとする過程であったとみることもできよう。真理とは、誰の眼にも正しい客観的なものであり、従って、対象を客観的に測定する方法を開発し、その測定結果を用いて因果関係を示す客観的法則を見出そうとする。

もし、対象が生物のように「バラツキ」があれば、多数集めて集団の測定値を個々の測定値の代わりに用いて法則を探す。

行動計量学における対象は人の行動という、そのままでは客観化しにくいものである。ここでも、多数集めて法則を探すことが行われる。人の行動は一見主観的であるだけに、多数集めてそこに法則を見出したときは、新鮮な驚きを味わい、また、これを解析する手法の偉力に感激するのである。

さて、以上の考え方は、人間の行動を「分析」の対象として考えたときには確かに有効である。しかし、研究の目的は分析だけではない。人間の行動から問題解決の方法を学びたいというような場合もある。このような場合には、別のアプローチもある。

人は、同じ問題を解決するときに全ての人が同じ方法をとるとは限らない。この意味ではまことに主観的である。各人は過去の蓄積により自分に最適の解決法をとる。それが、他の人から見ると馬鹿馬鹿しいほど回り道に見えても、当の本人とっては、それが最善のこともあり、その解決法の優劣は客観的には論じられない。

私の専門である医学の分野においても、同じ患者をみた二人の医師が違った診断と違った治療法をとることもある。誤診によって異なるのは論外であるが、両者とも正しくて、ただ考え方が異なるが故に異なった結果になることも決して少なくない。

このような場合は、人を多数集めても意味はなく、一人一人の行動を詳細に分析して、そのあとをたどってみることも必要であろう。このようなアプローチによって、仮に他の人には適用できなくとも、その一人の人の考え方や行動を再現し得る法則のようなものが見出されれば、それは大変価値があるのではないだろうか。

私が最近、興味をもって研究している「人工知能」の分野はこれに近いアプローチをする。

行動計量学会も、社会のニーズを反映し年々盛んになり、基礎も固まってきたことはまことに喜ばしいことである。しかし、それにも拘わらず行動計量学とは何なのかについては、必ずしも見方が一致していない。多くの分野の人が集まって学際的研究の場を作ることは意義深いことであるが、問題は場があるだけではなく、実際の交流が行われることであろう。

このためには、行動計量学とは何なのかについての共通の考え方が必要であろう。本来、各分野の専門学会で発表すべきような結果を、「手法を使った」というだけの理由で行動計量学会にもちこんだのでは、学際的交流は不可能になってしまう。

私は、本学会にとって重要なのは、人の行動の研究であるように思う。ここで二例をあげたが、このような様々なアプローチによって人の行動の原理が明らかになることこそ本学会の目指すところではないだろうか。（日本行動計量学会監事・東京大学医学部助教授）

編集幹事会からのお願い

最近、欧文誌・和文誌とも投稿が増えつつあり、編集幹事会でも大いに張りきっています。欧文誌 "*Behaviormetrika*" は11号に達し順調に発展しています。とくに10号ではクラスカル氏の論文を掲載するなど、少しずつではありますが国際的に知られるようになってきました。また、和文誌『行動計量学』も既に8巻2号の刊行を終え、目下9巻1号の原稿（特集記事3編、原著論文3編）を印刷にまわす段階です。この際、発行の遅れを取り戻すとともに、よりよい学会誌にすべく専心努力するつもりでおります。会員の皆様からのより多くの御投稿をお待ちしております。

ところで、従来御投稿いただいた論文の中には、投稿規定から外れるため、編集幹事会でいたずらに時間を浪費するものがままあります。円滑な編集活動と迅速な学会誌刊行のため、以下の諸点を守るよう御協力お願いいたします。

◆全般の留意点

一、欧文誌・和文誌とも投稿に際しては、必ず最新号の「執筆要綱」に従うこと。要綱は、欧文誌の場合は裏見返し、和文誌の場合は表紙裏に掲載。

二、投稿資格は本学会員に限る。従って、共著者もすべて会員でなければならない。連名発表の場合はこの点に注意されたい。

三、投稿論文は、図・表等ともコピー2部を含め、計3部提出のこと（原稿は返却しない）。

四、図・表を含め、校正時で原稿への加除は原則として認められないので注意されたい。

五、図・表は、1図表ごとに別紙に記載し、図と表との各々に一連番号を付し、まとめて提出すること。また、本文中の対応位置にその番号を明示すること。

六、注記、参考文献等の記載法にはとくに不備が多いので、執筆要綱に十分注意されたい。

七、印刷の都合上、二重、三重の添字や複雑な記号の使用は極力避けられたい。

八、上ツキ、下ツキ、ゴチック、ギリシャ文字等の字体・書体の指定は、原稿段階で赤字で記入されたい。

九、欧文誌、和文誌とも送付先は本ページ左下参照。

◆欧文誌投稿の留意点

一、図版は、そのまま版下となるので、白紙に黒インクで明瞭に記されたい。ただし、図中の文字・数字は写植印字のため、黒鉛筆で薄く記入のこと。

二、キーワード、著者の英文住所は忘れられやすいので注意すること。なお、日本語での住所も併記されたい。

三、郵便費節約のため、校正時に原稿は同封しないので、予め手元にコピーを残されたい。

◆和文誌投稿の留意点

投稿論文の査読に際し、公平を期すため、著者名・所属名を伏すことにしています。つきましては左記の要領で御執筆くださいますようお願いいたします。

一、1ページ目：表題とその英訳。

二、2ページ目：原著者名とそのローマ字綴、所属名とその英訳。

三、3ページ目：和文要約。レフェリー決定の参考とするので、十分意をつくして作成されたい（ただし、この要約部分は学会誌には印刷されない）。

四、4ページ目：英文要約（一五五語以内）。

五、5ページ目以降：本文（謝辞は独立ページに記入）。

七、別紙に、原稿用紙・図・表の各々の枚数を明記し、その下に連絡先の住所、氏名および電話番号を記して送付されたい。

八、さらに、以下の形式での著者紹介を同封すること（連名発表の場合は各人ごと）。①所属・役職　②学歴・学位　③主な著書・論文（3点まで）

なお、和文誌に投稿を希望される方は、学会専用の原稿用紙を購入してください。原稿用紙は2冊（書き直しのため通常2冊必要）で九五〇円（送料込み）です。郵便振替（東京八－一四八〇五六日本行動計量学会）で御送金ください。その際、振替用紙連絡欄に必ず「原稿用紙希望」と記入のこと。入金確認後、直ちに原稿用紙を発送します。

◆投稿原稿送付先

欧文誌：〒三〇五茨城県新治郡
桜村　筑波大学社会工学系
松原望（欧文誌編集幹事長）
あて。

和文誌：〒一五三東京都目黒区
駒場二－一九－一　大学入試
センター研究部気付　池田央
（和文誌編集幹事長）あて。

今期の編集委員決まる

先の理事会で編集委員をつぎの方々に委嘱することになった。任期2年。

◆編集委員会（七十二名）

〔委員長〕肥田野直（大学入試センター）

〔欧編集長〕＊松原望（筑波大）

〔和編集長〕○池田央（東工大教育工学開発センター）

〔委員〕鮑戸弘（東大新聞研）、浅井晃（千葉大理）、浅野長一郎（九大理）、阿部裕（阪大医）、生澤雅夫（大阪市大文）、石村善助（都立大人文）、井関利明（慶大文）、井上通敏（阪大医）、○岩坪秀一（大学入試センター）、＊印東太郎（カリフォルニア大）梅澤勉（警視庁）、浦昭二（慶大工）、大島正光（医療情報システム開発センター）、丘本正（阪大基礎工）、奥野忠一（東大工）、小野茂（広大総合科学）、開原成允（東大医）、○柏木繁男（千葉大文）、＊上笹恒（筑波大哲思）、茅陽一（東大工）、河口至商（北大工）、木下冨雄（京大教養）、木村栄一（日医大）、京極純一（東大法）、工藤昭夫（九大理）、小島外弘（同志社大文）、駒澤勉（統数研）、斉尾乾二郎（東大農）斎藤陽一（東大医）、＊佐伯胖（東大教）、芝祐順（東大教）、＊杉浦成昭（筑波大数）、鈴木達三（統数研）、関寛治（東大東洋文化研）、瀬谷正敏（青学大文）竹内啓（東大経）、＊竹村研一（筑波大心理）、戸田正直（北大文）西田春彦（阪大人間科学）、○西村恕彦（東農工大工）、＊野崎昭弘（国際キリスト教大教養）、○野元菊雄（国語研）、早川武夫（専大法）、林知己夫（統数研）広田安夫（九州歯大）、藤田廣一（慶大理工）、○伏見正則（東大工）、○藤本熙（統数研）、○古川俊之（東大医）、○前田俊郎（専大法）、○増山英太郎（都立大人文）、松村良之（北大法）、＊丸山久美子（青学大文）、水野欽司（統数研）、三隅二不二（阪大人間科学）、三宅一郎（同志社大法）、＊宮原英夫（北里大医）、宮原守男（虎の門法律事務所）、＊村上征勝（統数研）、村田昭治（慶大商）、安田三郎（関学大社会）、安本美典（産業能率大経営情報）、○柳井晴夫（千葉大文）山本俊一（東大医）、○山本幹夫（帝京大医）、○吉澤正（山梨大工）、吉田正昭（中大理工）、脇本和昌（岡山大教養）、渡部洋（大学入試センター）

（＊印は編集委員のうち実務を担当する欧文誌編集幹事、○印は和文誌編集幹事）

▼本学会の理事で学会設立にも参画された日本医科大学の木村栄一氏が本年二月十一日亡くなられました。氏は編集委員としても創立以来御尽力くださいました。ここに謹しんで御冥福をお祈り申し上げます。

大会発表に思うこと

会員の声

野口　裕之

私は昭和50年に本学会の会員になって以来、教育心理学における行動計量的方法について勉強し研究してきた若輩会員です。当初は学際的な学会ということに非常に興味をひかれ、大会などでも一所懸命勉強させていただいていたのですが、最近は学際的学会であるがゆえに大会発表の仕方に難しさがあるということを感じます。どのような予備知識を前提として話すかという点で、様々なベースを持った会員を対象に限られた時間内で発表するわけですから予備的な事項の説明に使う時間の配分が非常に大切になります。内容的な予備知識をぬいてはその研究の背後にある状況がわからず有益な討論も行なわれないことになるし、さりとて発表時間の半分近くもかけて予備知識を説明していたのでは肝心の中心点が十分消化されないままに終わってしまう可能性があります。発表者も随分呈示の方法などで苦心されているようですが、全体的な討論という点ではいま一つ学際的ということの利点が生きていないような気がします。うまい解決法というのはなかなかないと思いますが、例えば、大会発表の予稿にかならずその発表の前提となる内容的な予備知識の説明をたとえ当該分野の会員にとっては常識的なことでも入れるように心掛けること、また、予稿集が大会当日ではなくある程度前に手に入るようにすることなども、一つの解決法になるのではないかと思います。

（日本行動計量学会会員・東京学芸大学教育心理学講師）

事務局から

◇前の会報25号でお知らせした通り、学会費の納入、所属・住所の異動連絡、学会誌などの郵便物受領、入・退会申込みの窓口は「(財)日本学会事務センター日本行動計量学会係」になりました。その他の事務は新事務局（大学入試センター岩坪）が担当しております。前事務局の水野理事の献身的な引継ぎ作業のおかげで、目下のところ新事務局は、ぎこちないながらもまずまず大過なく動いております。

◇57年度会費納入請求が例年より一月ほど早く皆様のところへ届いたと思います。57年度から正会員五千円、準会員三千五百円となりました。未納分はこれに加算され先納分はこれから差し引かれて、請求されます（差し引きゼロの場合には請求はいきません）。なお明細も印刷されております。学会の健全な運営は、ひとえに健全な会費納入状況にかかっております。御協力お願いいたします。（三ケ月以内に納入しないとその後何回も催促されます）

◇入会の申込み受付は学会事務センターで扱います。その手続きは以下の順です。紹介者の会員は周知徹底をお願いいたします。

①入会希望者はハガキに住所・氏名を明記の上、学会事務センター（〒一一三東京都文京区弥生二―四―一六日本学会事務センター日本行動計量学会係）へ「入会申込書」を請求する（電話は不可）。

◎センターから「申込書」を送付。

②「入会申込書」に必要事項を記入の上、事務センターに返送する。とくに年度末の一、二月時の入会の場合には何年度からの入会かを明記すること。ただし、事務手続き、ファイル作成作業上、できれば年度末の入会は避けてください。

◎学会の資格審査終了後、事務センターから会費を請求。

③入会希望者は会費を振込む。

◎事務センターから入会年度の既刊学会誌などを送付。

以上のように従来の手続きとは違いますので御注意ください。

◇これから四月にかけて準会員から正会員への変更、所属の変更など会員の異動が多くなります。該当される方は、その内容を以下の要領で学会事務センター（住所は前項①参照）に御連絡ください。

(イ)必ずハガキによること。

(ロ)あて先は日本学会事務センター日本行動計量学会係。

(ハ)本人氏名（ふりがな）と会員番号（各会員への郵便物のあて名の氏名欄の右下に印字されているコード番号）を明記する。

(ニ)異動内容を十分かつ正確に書いてください。記載が不十分だと受付けてもらえません。

◎新所属と旧所属とを対比させて記入する。内容は所属先の名称、郵便番号と所在地、電話〈市外局番と番号〉

◎新しい自宅住所と旧住所を並記する。内容は郵便番号、住所および電話〈市外局番と番号〉

◎新しい連絡先が「所属」か「自宅」かの別を記入すること

◎「準会員」から「正会員」に変わった場合には、その旨明記

◇なお前号・会報25号には、学会事務の流れと注意事項が掲載されています。大変重要ですので是非とも保存していただき、必要に応じてご参照ください。

◇前に事務局を担当されていた統計数理研究所の水野理事は、十ケ月の予定で、本年一月末米国に出発されました。本学会運営の健全化・財政のたて直しなど、氏の寄与の大きさは、実に測り知れないものがあります。五年間にわたる学会への献身、本当に御苦労様でした。米国で五年間の骨休みをされるとともに、日本を離れた新たな視点から学会のあるべき姿へも思いを致していただきたいと思います。

◇あまりにも有能な前任者のあとをうけてまことに心もとないのですが何とか頑張る積りです。会員諸氏には何かと御迷惑をおかけするかとも思いますが、何卒よろしくお願いいたします。（岩）

◎会員数（三月一日現在）
（正）九三三人（準）一三四人
（賛助）三一　法人

過去の大会発表論文抄録集を購入希望する方へ

送料を含む代金は左記の通りです。送金は振替（2ページ下段参照）でどうぞ。通信欄に「第〇回抄録集購入希望」と明記してください（第三回のみ残部なし）。

第一回　一千円。　第二回　一千五百円。　第四回・五回　二千円。　第六回・七回　二千八百円。　第八回　三千三百円。　第九回　三千五百円。